

令和3年度 江戸川区立平井東小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	◎考える子ども ○助け合う子ども ○じょうぶな子ども ○進んで取り組む子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校～笑顔で登校、笑顔で下校～ ○「あなた」を大事にするひがしっ子 ○「あいて」を大事にするひがしっ子 ○児童一人一人の心に寄り添う教師 ○自身も成長し続ける教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>○人権意識の定着 ○基礎学力の定着と学習意欲・思考力の向上 ○校内研究による外国語の授業力向上 ○学校図書館を活用した授業の改善 ○休み時間の運動遊びの定着 ○ホームページによる学校情報の積極的な発信 ○荒川学習の計画的な実施 <課題>○自ら学ぶ力・思考力のさらなる育成 ○ICT機器(児童用タブレットを含む)活用の授業方法の工夫 ○特別支援教育の充実 ○運動の日常化		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	ぐんぐんタイム・水チャレ、学力向上の時間等の計画的実施	ぐんぐんタイム:年30回、水チャレ:週1回、学力向上の時間:月1回	A	B	どの取組も定着している。タブレットを使ったドリル学習ができるようになり、児童の取組みはより意欲的になった。	A	タブレットを使うことでより一人一人の実態に合った学習ができると思う。活用に期待している。	児童用タブレットの活用、「水チャレ」の指導内容の系統性、中学校との連携
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書ノート活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	学校図書館の整備、図書ボランティアとの調整、探究的学習での図書活用	全学年年間授業:35時間 読み聞かせ:月2回 探究的学習:全学年学期1単元	B	B	児童が自ら課題設定することはできている。図書を用いた情報収集・活用と、得た情報を再構成して表現することについて指導を継続する。	B	学校に来るときれいに整備された図書室に安心する。読書を通して豊かな心が育つよう、これからも取り組んでほしい。	使いやすい図書館の維持と計画的な利用の継続、ICT活用との連携
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	「パワーアップチューズデイ」(全校運動遊び)、授業改善	休み時間のパワチュー:週1回 授業改善提案:学期1回	B	B	体育的な活動も多く制限がされるが、子供たちが主体的に運動に取り組めるよう方法を工夫している。	B	成長期の子供たちには、遊びも運動も大変重要だと考える。	体育の時間の指導内容との関連、家庭への啓発
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	各教科学習と関連付けた指導、オリパラコーナーの設置	生活・総合・体育・道徳等の授業:年35時間	B	B	東京オリンピック・パラリンピックを見て、夢をもつことや努力することの大切さについて知ることができた。	B	直接の観戦はかなわなかったが、努力を重ねてきた人から学ぶことが大いにあったと思う。	取組のまとめと成果の検証、オリパラコーナーの継続
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	校内研究の成果活用と実践ALTとの打合せ方法の改善	年間授業:5,6年70時間、3,4年35時間	B	B	校内研究としての2年間の取組み成果や年間指導計画を基に、日常の指導を工夫している。	B	オリンピックもあり、生活の中でも外国語の重要性は実感したと思う。	年間指導計画に基づいた実施と改善、ALTを生かした授業の充実
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	アンケート・面接の実施、生活指導全体会・研修会の実施	いじめ・不登校ともにゼロ	A	A	いじめは予兆での発見と対応を、共通理解している。幸い全学年で不登校児童もいないが、気を緩めずに取組を続けていく。	A	今年も、いじめも不登校もゼロという状況は驚く。日々の細やかな取組みに感謝したい。	児童の個人面談の実施、いじめ未然防止と早期対応の校内体制を継続
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援教室専門員、巡回指導教員の活用、副籍交流の実施	特別支援教育研修会:年3回 特別支援校内委員会:適宜	A	B	専門員が核となり巡回指導員やSC、心理士等と連携し、指導・支援が充実している。校内委員会も機能している。	B	家庭の状況も変化してきている。学校では多くの専門的な目で子供たちを見守ってほしい。	特別支援全体会の工夫、校内委員会のさらなる活用
	インクルーシブ教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・ひまわり学級と通常学級の児童同士の交流活動や共同学習、また副籍交流の充実	学習環境のユニバーサルデザイン化、交流協同学習・年間指導計画の改善	交流協同学習:各学年学期2回	B	B	年間指導計画の改善により、これまで以上に日常的な協同学習の姿が意識されてきた。感染下での難しさもあるが工夫を続けたい。	B	ひまわり学級の子供たちもいつも頑張っている。お互いにとっていい学習となる場の工夫は有難い。	年間指導計画の改善、行事指導の工夫
特色ある教育の展開	道徳教育を核とした学校作り	・全教職員で行う、「自己有用感の確立」と「多様性の尊重」を目指す教育	大人と子供の合言葉の策定、児童への指導、保護者への啓発	「あなたとあいてを大事にできた」:8割5分(児童アンケート)	A	A	日々の指導の中で全教員が合言葉を意識することで、子供たちの姿もなってきた。	A	学校だよりの内容などから、学校の様子や校長の考えがよく伝わる。	月ごとの重点内容の検証、全校体制での指導の工夫
	音楽的活動の充実	・達成感を味わえる課外金管バンドクラブの活動の実施	感染対策下での活動支援、保護者への協力依頼	「制限下でも達成感を味わえた」:8割(児童アンケート)	B	B	楽器に制限がある中でも、子供たちは高い意欲をもって活動に参加している。	B	近況下では仕方がないが、伝統的金管バンドの活躍を楽しみにしている。	伝統を基盤とした新たなやり方の工夫、発表の場の設定
	環境教育の推進	荒川環境学習を通じた課題発見・解決・発信力等を育てる環境教育の推進	年間計画に基づく荒川環境学習、外部講師の活用、発表の場の設定	「環境について意識をして生活した」:7割(児童アンケート)	B	B	長年継続してきた荒川環境学習をSDGsの取組みとも関連させて進めていきたい。	B	SDGsはこれからの教育の中でも重要な視点なので、様々な工夫してほしい。	SDGsと関連付けた年間指導計画の作成、発信を重視した活動の充実
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレット活用の授業実践に向けた研修 ・ICTを活用した教員の授業力の向上	校内研修・QJT研修の実施	電子教科書、タブレットの活用:毎日	A	A	区の実践推進校として全教員が積極的にタブレットの活用を進めている。	A	新しい取組はこの社会状況ともマッチし、難しさも多いと思うが期待している。	一人一台のタブレット端末を活用した授業改善)、成果の区内全校への発信
	服務規律の徹底と職への意欲向上	・職への誇りと服務への高い意識をもつ職員 ・児童への愛情と経営参画意識をもつ職員集団	日常の言葉かけや職員会議、研修を通じた意識改革	服務事故ゼロ	B	B	感染対策が続き通常の学校生活を送ることができないが、子供たちのために日々工夫している。	B	子供たちのために一生懸命な教員ばかりだが、気を緩めることなく取り組んでほしい。	服務への高い意識の維持